ＪＲ東海労ニュース

№１３２６
２００９年 ８月７日
ＪＲ東海労働組合

被爆から64年を迎えた広島「原爆の日」

核廃絶の誓いあらたに！

８月６日、64年目を迎えた広島「原爆の日」、平和記念公園で、記念式典が行われ、核のない平和な世界を実現するために、多くの市民があらたな誓いを打ち固めました。

しかし、一方、田母神前航空幕僚長が、広島市内で講演し、日本も核武装を追求すべきと訴え波紋を投げかけたということが報じられています。

私たちは、あえて８月６日に、このような講演を行う意図を見抜き、真の平和を求め奮闘しなければなりません。

東京新聞（夕刊） 2009年(平成21年)8月6日(木曜日)

「核なき世界、2020年までに」

平和宣言 オバマ演説も

被爆64年 広島「原爆の日」

秋葉忠利広島市長の平和宣言が終了し、空に放たれたハト＝6日午前、広島市中区の平和記念公園で

「広島原爆の日」の6日、前航空幕僚長の田母神俊雄氏が広島市内のホテルで講演し、「日本は核武装を追求すべきだ」と述べ、あらためて持論を展開した。秋葉忠利市長らが「被爆者の心情に配慮を」と日程変更を求めたのに対し、田母神氏側はこれを拒否する形で講演を強行。市民らはどう受け止めたのか。（秦淳哉）

田母神氏、核武装論の講演強行

「原爆の日」広島に波紋

市民反発「配慮ない」

市内の講演会場。入り口付近やロビーには私服姿の警察官が多数配置され、万一の事態に備えるなど、講演前からピリピリムードに包まれた。

定員は八百五十人だが、千三百円の前売りチケットは完売。午後六時の開始時刻になると、満員の会場は割れんばかりの拍手に包まれ、田母神氏が壇上に登場した。

講演タイトルは「ヒロシマの平和を疑う」。君が代を斉唱し、原爆死没者らへの黙とうに続いて講演が始まった。

「危険人物の田母神です」。田母神氏はそう自己紹介して会場を沸かせた後、「核廃絶は絶対にできない」と主張。「夢物語すぎない」と主張。「各国首脳も核武装して強い国になったほうが国が安全になると考えている。核兵器の戦争に勝者はない。だから大きな戦争にもならない。日本も世界の中で生きるために核武装を追求すべきだ」と語り、核武装論を訴えた。

今回の講演計画が明らかになった六月、秋葉市長が「原子爆弾が広島に投下された日であり、広島市民の心情に配慮して日程の変更を」と田母神氏側に申し入れた。

しかし講演の主催者「日本会議広島」は七月二十七日、地元紙に意見広告を掲載。この中では「核兵器廃絶は私たちの願い」と主張し、「昨年他人に配慮ができない人に平和を語る資格はない」と反発した。

「中身はともかく講演会を開くこと自体を制限することもない」と話す男性もいたが、大半が「なんでこんな日に…」と首をかしげていた。

一方、平和記念資料館では被爆者の講話会が開かれ、多数の市民が参加した。この中で当時、十四歳だった梶本淑子さん（七）は、爆心地から二・三キロの工場で飛行機のプロペラ部品を作っていたとき被爆した。

その体験を基に静かに聴衆にこう語りかけたのが印象深かった。「人間は愚かだから、忘れ去られた歴史は必ず繰り返します。私にはもう伝える時間がないが、皆さんが子や孫の代まで伝えてください。真の平和はこのようなことがなくなることだと思います」

統領の核廃絶に希望を持っている。平和の実現は互いの配慮が必要で、

講演を終え聴衆から拍手を浴びる田母神俊雄氏＝6日、広島市中区で

ニュースの追跡

記事・東京新聞

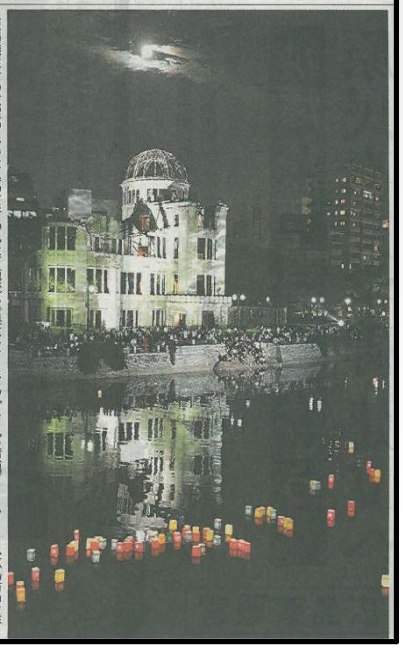
戦争のできる国づくりに反対しよう！

平和の祈り 川面照らす

広島で灯籠流し

原爆犠牲者の慰霊や平和への願いを込めた灯籠流しが六日夜、広島市中区の原爆ドーム近くを流れる元安川などであり、「戦争がなくなり、世界のみんなが笑顔で暮らせる社会になりますように」などと書かれた色とりどりの灯籠約一万個が川面をゆっくりと流れた。

時折小雨が降る中、



原爆犠牲者の慰霊の思いを込めて行われた灯籠流し。奥はライトアップされた原爆ドーム＝6日、広島市中区で